

AI-RAN6

優先接続

韓SKT、AI-RAN先導網の構築に着手、
フィジカルAI向け実証を推進

- 韓国SKTは、韓国政府の「Hyper-AIネットワーク基盤構築」実証事業に採択され、AI-RAN先導網の構築とフィジカルAIを活用したサービスの実証を開始した。
- AI-RANは、無線アクセスネットワークにAI演算機能を統合するアーキテクチャであり、低遅延・高信頼通信とネットワーク側でのAI処理により、ロボットなどフィジカルAIの性能向上と省電力化を実現する。
- 2027年まで段階的に実証を進め、製造・物流・安全分野での商用化を目指す。

実証内容	AI-RAN、5G SA、NWスライシング、AIネットワーク自律制御
サービス	- 四足歩行巡回ロボットによる産業安全監視 - 無人自動搬送 - ヒューマノイドのAI処理オフロードによる省電力化
参画企業	SKT、SAMSUNG、HFR、Ericsson、Nokia等
展開計画	2026年:仁川・板橋で実証開始 2027年:工場等の実環境に拡大

伊TIM、トラフィック管理によるプレミアム接続サービス
「Priority」を開始

- イタリアのTIMは、トラフィックを優先的に処理することで応答性や通信の安定性の向上を図るプレミアム接続サービス「Priority」を発表した。
- TIMは、まず固定ブロードバンド向け「WiFi Priority」を提供し、AIツール、クラウド、オンラインゲーム、ビデオ会議、動画配信、コンテンツ制作などの利用時に、ダウンロード通信を優先処理することで応答時間を短縮し、通信の安定性を向上させる。これを通じて複数ユーザーや端末が同時利用しても性能低下を抑制できるという。
- 5G向けPriorityサービスは10月開始予定で、サポート機能やデジタルセキュリティ製品も順次展開する。

サービス	固定BB・5G向けプレミアム通信
内容	トラフィック優先制御による応答性・安定性の向上
対象	AI、クラウド、ゲーム、動画配信、コンテンツ制作など
展開計画	固定BB向け開始。5Gは10月開始予定
備考	料金未公開

ISAC実証

米AT&TとEricsson、
5Gネットワークによるドローン検知を実証

- 米AT&TとEricssonは、米テキサス州AT&Tスタジアム周辺で、5Gネットワークを活用したドローン検知・追跡技術を実証した。
- 既存の5G基地局(Massive MIMO)とAIセンシング技術を活用し、追加センサーなしで、空域に接近・侵入するドローンの位置・速度・高度をリアルタイムに検知・追跡できることを確認した。
- 将来の6Gで有力技術と位置付けられるISAC*の機能を、既存の5Gネットワーク上で先行的に実証する取り組みである。

* ISAC(Integrated Sensing and Communication):通信ネットワークを活用し、通信と周辺環境のセンシング(検知・測位・追跡)を同時に実現する技術

実証内容	5G基地局によるドローン検知・位置特定・リアルタイム追跡
活用技術	Massive MIMO、AIセンシング、ISAC
特徴	既存通信網をセンシング基盤として活用
想定用途	スタジアム、重要インフラ、公共空間の警備・監視
展開計画	5Gから6Gへの進化を見据えた技術検証を継続



6G政策

米国など25か国、「6G Leadership and Security」を始動

- 米国NTIA(商務省国家電気通信情報庁)は、欧州・アジア太平洋・米州のパートナー政府とともに、計25カ国の枠組みとして「Call to Action for 6G Leadership and Security」を発表した。
 - 参加国は今後12か月以上にわたり、6Gネットワークの安全性、相互運用性、レジリエンス強化に向けた協力を推進する。また、信頼できるAI(Trusted AI)を6Gネットワークの開発・運用を支える基盤技術と位置付け、民間主導のイノベーション促進を目指す。
- ※NTIA原文の地域区分は欧州・インド太平洋・西半球(Western Hemisphere)

参加国	- 欧州(15):英国、ドイツ、フランス、イタリア、スウェーデン、フィンランド、デンマーク、ノルウェー、ギリシャ、チェコ、エストニア、ラトビア、リトアニア、ルーマニア、アルバニア - アジア太平洋(4):日本、韓国、豪州、フィリピン - 米州(6):米国、カナダ、コスタリカ、パナマ、ホンジュラス、パラグアイ
目的	安全で信頼性の高い6Gネットワーク実現
協力分野	セキュリティ、相互運用性、レジリエンス
AI	信頼できるAI(Trusted AI)を6G開発・運用を支える基盤技術として位置付け
計画	6G商用化を見据えた官民連携と国際協力推進

upper 6GHz

豪Optus、upper 6GHz帯を用いた
6G向け実証で3.5Gbpsを達成

- 豪OptusとNokiaは、upper 6GHz帯を活用した6G研究実証において、MediaTek製試験端末と768素子Massive MIMOアンテナを用い、最大3.5Gbpsのダウンロード速度を達成した。
- 加えて、upper 6GHz帯において3.5GHz帯と同等レベルの屋外カバレッジを確認したほか、AIを活用したネットワーク設計技術を検証した。
- 実証結果はITU-Rや3GPPにおける標準化議論への貢献が期待され、両社はシドニーのテストベッドを活用し6G研究を継続する。

通信

- upper 6GHz帯(200MHz幅)で最大3.5Gbps
→6G向け大容量通信の可能性を実証

インフラ

- 既存5G基地局を活用し、
3.5GHz帯と同程度の屋外カバレッジを確認

AI活用

- AI搭載ロボット犬による屋内電波測定・
ネットワーク設計の自動化を実証

今後

- 6G研究やITU-R、3GPP標準化活動に活用し、
シドニーのテストベッドで研究を継続

5G NWスライシング

ギリシャCOSMOTE、5G+ NWスライシング
サービス「Priority Pass」を個人向けにも提供開始

- ギリシャのCOSMOTEは、法人向けに提供していた5G+「Priority Pass」を個人向けにも提供開始した。
- 同サービスは5G SAのNWスライシングを活用し、利用者専用のネットワークスライスを3.90€/3時間で利用できるもので、混雑時の通信品質向上を図る。

対象

- 従来法人向け→個人ユーザーに拡大

提供方式

- 5G SA NWスライシングを活用し、
利用者専用スライスを提供

利用形態

- アプリから有効化し、
利用者専用のネットワークスライスを3時間利用可能

料金

- 3.90€ ※2026年9月28日まで無料体験

衛星D2D

米LynkとOmnispaceが統合、
D2D新会社「Elveo Mobile」が始動

- D2D*事業者の米Lynk Globalと米Omnispaceが合併を完了し、新会社Elveo Mobileが発足した。
- Lynkの低軌道衛星とOmnispaceの3GPP準拠グローバルSバンド(2GHz帯・60MHz幅)を統合し、端末を改造せず標準スマートフォンで音声・データを提供する。
*D2D(Direct-to-Device):衛星直接通信

新社名	• Elveo Mobile
周波数	• OmnispaceのSバンド 2GHz帯・60MHz幅 (上り1980～2010MHz／下り2170～2200MHz、 3GPP NTN n256)
技術	• 複数周波数帯に対応するLynkの衛星通信技術 ＋軌道上処理機能

NWスライシング規制

印TRAI、消費者向け5G NWスライシングに
QoSガードレールを提案

- インドの規制機関TRAIは、5G NWスライシングを品質(QoS)規制の対象に組み込む改正案を公表した。 ※意見募集は9月2日まで延長
- 事業者は、スライス提供前に十分なネットワーク容量が確保できていることを証明するとともに、品質条件を21日前までに届け出る必要がある。PRB*利用率は80%未満の維持が求められる。
- 背景には、Airtelによる個人向けNWスライシングサービス「Fast Lane」の開始があり、ネット中立性との整合性や品質差別化の許容範囲が論点となっている。
*PRB(Physical Resource Block)
:周波数・時間で構成される無線リソースの割当単位

対象	• 消費者向け商用5G NWスライシング
事前要件	• 十分な容量の証明＋スライスの品質条件を 21日前に届け出
輻輳対策	• PRB利用率80%未満を維持 • 月5日以上基準超過時はNW容量増強義務
料金・品質	• 各スライスを個別の料金メニュー扱い • 実測速度が広告値を下回れば非適合